

アナリスト レポート

緩やかな拡大局面に移行しつつある

しがぎん
経済文化センター
(産業・市場調査部)

県内景気天気図



凡例



県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動を鉱工業生産指数で見ると、食料品やプラスチック製品などは大幅に低下したが、輸送機械や電気機械などが大幅の上昇となったため、前月比では2か月連続の上昇となった。ただ、生産状況の先行きをあらわす出荷指数と在庫指数(製品在庫)をみると、出荷は6か月連続で上昇したものの、製品在庫が2か月連続かつ大幅の上昇となり、今後の動向を注視する必要がある。

需要面では、百貨店・スーパーの販売額(全店ベース)はウエイトの高い飲食料品が5か月ぶり、家庭用品も3か月ぶりの微増となったため、全体では5か月連続で前年を下回っているものの、マイナス幅は縮小している。ドラッグストアと家電大型専門店の販売額は引き続き前年を上回り堅調に推移しているに加え、ホームセンターとコンビニエンスストアの販売額も前月に続きプラスとなった。また、乗用車の新車登録台数は2車種合計で14か月連続のプラス、軽乗用車も4か月連続かつ大幅のプラスとなっている。民間設備投資の指標である民間非居住用建築物着工床面積は、商業用が前月に続き前年を大きく下回ったものの、鉱工業用とサービス業用が2か月ぶりの大幅増となったため、3業用計では高水準かつ大幅のプラスとなり、工事費予定額も大幅に前年を上回った。また、トラックの新車登録台数も3か月連続で前年を大きく上回っている。さらに、公共工事の請負金額は市町発注を中心に大幅に増加したため、全体では3か月ぶりの大幅プラスとなった。一方、新設住宅着工戸数は持家が2か月ぶりに前年を上回ったものの、貸家が3か月連続のマ

京滋の景気動向

京都府・滋賀県の景気は、緩やかな拡大に転じつつある。個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、幾分弱めの動きとなっている。公共投資は、横ば

イナス、分譲住宅が3か月ぶりの低水準にとどまったため、全体では3か月ぶりの大幅マイナスとなった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率が久々の2倍超になるなど、有効求人倍率も引き続き高水準にあり、企業側からみた常用雇用指数と製造業の所定外労働時間指数はともに引き続き前年を上回っている。

しがぎん経済文化センターが5月に実施した「県内企業動向調査」によると、業況判断DIは製造業が13四半期ぶりにプラスに転じたことなどから、三四半期連続でマイナス幅が縮小し、改善傾向が鮮明になった。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は全体的には回復局面が続いているとみられる。需要面では一部で一進一退の動きがみられるものの、回復傾向のものが増え、総じて堅調に推移していると考えられる。したがって県内景気の現状は、回復基調から緩やかな拡大局面に移行しつつあるものと考えられる。

今後の動向 県内製造業の生産活動については、製品在庫の増加が懸念材料ではあるが、全体としては堅調な動きが持続するものと考えられる。需要面では、景気の先行き不透明感などの不安材料はあるが、全体的に底堅く推移するものと思われる。したがって今後の県内景気については、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に加え、人手不足による業況悪化などが懸念されるものの、拡大局面に向けて緩やかに移行していくものと考えられる。

い圏内の動きとなっている。生産、輸出は、緩やかに増加している。労働需給は引き締まっており、雇用者所得も緩やかに増加している。
【日本銀行京都支店:「管内金融経済概況」(2017年6月8日発表)より】

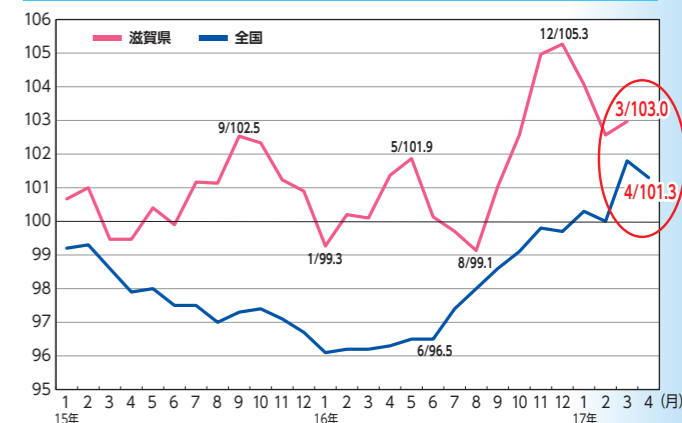
「鉱工業生産指数」の前月比は 2か月連続の上昇

2017年4月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は103.8、前年同月比+2.5%で6か月連続の上昇となり、「季節調整済指数」は104.2、前月比+0.6%で2か月連続の上昇となった。季節調整済指数の3か月移動平均値(3月)は103.0、前月比+0.4%で、3か月ぶりの上昇となった。大分類の業種別に季節調整済指数の水準をみると、「窯業・土石製品」(61.6)や「金属製品」(90.0)、「鉄鋼」(91.7)などは引き続き低水準にとどまっているものの、「輸送機械」(125.1)や「電気機械」(119.0)、「化学」(115.6)、「パルプ・紙・紙加工品」(110.2)などが高水準となった。前月に比べると、「食料品」(前月比-19.4%)や「プラスチック製品」(同-12.7%)などは大幅に低下したが、「輸送機械」(同+21.7%)や「電気機械」(同+21.6%)などが大幅の上昇となった。

生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在

庫)」を前年比で見ると、出荷は6か月連続で上昇しているが(原指数98.2、前年同月比+6.4%)、在庫が2か月連続かつ大幅の上昇となった(同133.8、同+16.9%)。

鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移(季節調整済値、2010年=100)



「軽乗用車新車販売台数」は 4か月連続かつ大幅のプラス

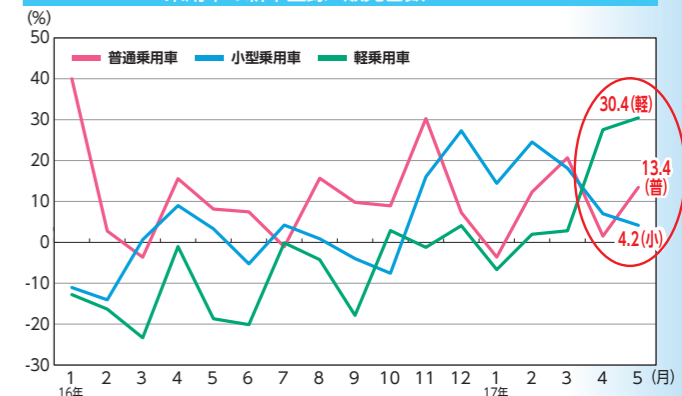
4月の「百貨店・スーパー販売額(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は95店舗)」は21,477百万円、前年比-1.0%と、5か月連続の減少となっているものの、マイナス幅は縮小。品目別にみると、ウエイトの高い飲食料品が5か月ぶりの微増(同+0.1%)、家庭用品も3か月ぶりのプラス(同+0.2%)となったものの、衣料品は10か月連続のマイナス(同-6.5%)、家電機器は5か月連続(同-5.6%)、身の回り品(同-5.7%)も3か月連続のそれぞれマイナスとなった。また、「既存店ベース(=店舗調整後)」の売上高は家庭用品のみプラスとなったものの、他の品目でマイナスとなり、全体では5か月連続で前年を下回っている。ただ、マイナス幅は縮小した(同-2.1%)。

「家電大型専門店・ドラッグストア・ホームセンター販売額(全店ベース=店舗調整前)」によると、4月の「ドラッグストア」(177店舗)は5,308百万円、前年同月比+11.2%で、25か月連続のプラス、「家電大型専門店」(39店舗)も3,059百万円、同+3.9%で8か月連続のプラスとなり、ともに堅調に推移している。また、「ホームセンター」(62店舗)も3,433百万円、同+0.6%で、前月に続きプラスとなった。「コンビニエンスストア販売額」(4月:560店舗)は、9,305百万円、

同+1.9%で、2か月連続のプラスとなっている。

5月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」が7か月連続の増加となっているのに加え(1,201台、前年同月比+4.2%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」も4か月連続かつニケタの大幅プラスとなったため(1,554台、同+13.4%)、2車種合計は14か月連続のプラスとなっている(2,755台、同+9.2%)。また、「軽乗用車」は4か月連続かつ大幅のプラスとなっている(1,710台、同+30.4%)。

乗用車の新車登録・販売台数(前年同月比)



「新規求人倍率」は 久々の2倍超

5月の「新規求人数(パートを含む)」は9,094人(前年同月比+8.3%)で3か月連続の増加、一方、「新規求職者数(同)」は5,297人(同-6.3%)で6か月連続のマイナスとなっている。この結果、「新規求人倍率(パートを含む、季節調整済)」は前月比+0.29ポイントと大幅上昇の2.09倍で、07年12月(2.05倍)以来の久々の2倍超となった。「有効求人倍率(同)」も同0.05ポイント上昇の1.28倍となり、ともに引き続き高水準にある。参考値として発表されている「就業地別」の有効求人倍率をみると、5月は前月に比べ0.03ポイント上昇の1.54倍で、公表値である「受理地別」の1.28倍を引き続き大きく上回っている。

求人倍率の推移(パートを含む、季節調整済値)

